

資格検定室NEWS

将来の自分の立ち位置を見据えるためのNEWSLETTER



人間の生き方＜生物の多様性に重ねて＞

卒業していった機械科3年生と「ECO検定」（環境社会検定）受験に向けての取り組みを行ってきました。その中で、「生物の多様性」についても考える機会がありました。

生物の多様性は、生態系の多様性、種の多様性そして遺伝子の多様性から構成されます。

＜生態系の多様性＞森林、里地里山、河川、湿原、干潟、サンゴ礁などいろいろなタイプの自然があります。

＜種の多様性＞動植物から細菌などの微生物にいたるまで、いろいろな生きものがいます。

＜遺伝子の多様性＞同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があります。

種の多様性が低ければ、環境変化などにより1つの種が絶滅したときに他の種も絶滅するリスクが高まるなど、3つの階層それぞれに多様性の保全が必要とされています。

また、生物多様性というものは、地球上のあらゆる生命が、「人間のためだけに存在しているわけではない」ということでもあります。私たちはとかく、何が、いくら分の経済的価値があるのか、といった「ヒトの視点」で、物事の意味を語りがちです。しかし、生物多様性という一つの大きな世界を考えると、その視点だけで意味の軽重を問うべきではありません。

生物多様性条約が作られた時、その前文の原案には、次のような文章があったそうです。「人類が他の生物と共に地球を分かち合っていることを認め、それらの生物が人類に対する利益とは関係なく存在していることを受け入れる」

この文章は、最終的に削除されてしまいましたが、これは私たち人類が、地球上の生命の一員として、決して忘れてはいけない一条であるといえます。

人間の存在も、全員が同じではありません。色々な外見や考え方、心情や目指す理想も違います。その事によって、他人が「自分」とは違うからと排除するのは、了見が狭すぎます。休日に所用があり、吉備中央町に出かけました。時間があつたので帰りに「鳴滝」を散策しました。

滝の水は上から下へとながれます。重力に逆らって上に登ることはできませんが、その道筋は多様で、決してすべての水が同じルート流れません。一気に滝壺へと向かう水もあれば、途中で何回も岩にぶつかりながら、飛沫となって別れて落ちる水もあります。

人間の辿る生き方も、色々なルートがあつていいのではと感じました。